

筑波大学周辺における街灯の分布

木村 昌司 (地球科学専攻)

1. 目的:つくば市は茨城県内において、犯罪認知件数が第2位となっている。また茨城県警が公開している犯罪マップによれば、その多くが天久保・吾妻地区の筑波大学周辺で起こっており、犯罪の最も多い地区となっている。

つくば市では、防犯灯整備の推進や自警団への支援を促進し、犯罪発生抑制を図っており、ペDESTリアンデッキや通学路への街路灯の設置や改修を順次進めている。しかしながら、市内には街路灯の未整備地区が多く、その早期設置が課題となっている。本研究では、土地利用状況と街灯の分布から筑波大学周辺における安全について考察する。

2. 対象地域:本研究の対象地域は、犯罪多発地区の天久保地区の3丁目・4丁目とする。天久保地区では、一戸建ての家が少なく、自治会による街灯の管理、防犯パトロールといった活動がほとんど行われていない地区でもある。

3. 研究手法:つくば駅周辺における街灯の研究として遠藤(2009)がある。遠藤の手法は、土地利用状況と街灯の分布との関連から、つくば駅周辺の安全を考察したものであった。本研究においても、遠藤の手法に習って行う。

2011年11月28日に街灯をGPSによるウェイポイントで記録し、取得したデータをArcMapに取り込み、分布図の作成を行った。取得したポイントは、大きい街灯(4m以上)175、小さい街灯(4m未満)35の合計210ポイントであった(表1)。また土地利用調査も併せて行い、地図化した(図1)。

4. 結果・考察:大学構内を通る道路沿いには、4m以上の街灯が多く設置されていたが、細い路地や東大通りには街灯の設置が少なく、暗い場所が数多く見られた。幹線道路から中に入った道路沿いでは、アパート・個人宅敷地内に設置されている街灯がほとんどであり、つくば市設置の街灯は幹線道路沿い、交差点に限られるものであった。

また土地利用調査から、大部分を学生が居住するアパートで占めており、個人宅は天久保4丁目東端の一部のみであることが分かった。商業施設が少なく、アパート・住宅地により構成されている天久保3丁目・4丁目においては、安心・安全なまちづくりを推進する意味でも、つくば市による更なる街灯の設置を求めたい。

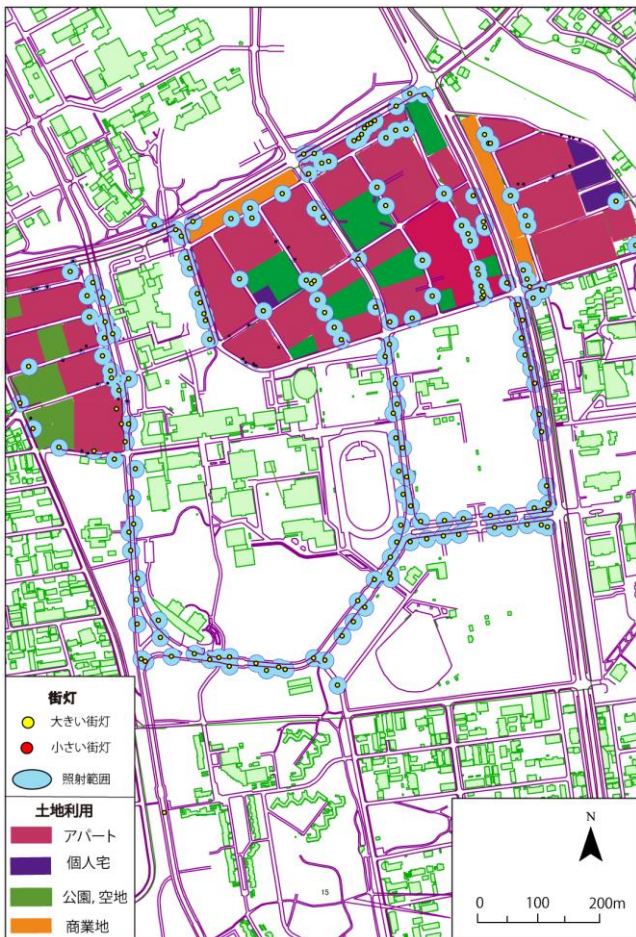


図1：筑波大学周辺における街灯の分布

表1 取得した街灯のウェイポイント

	取得ポイント
大きい街灯 (4m以上)	175
小さい街灯 (4m未満)	35
合計	210